



「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です！



2024年6月6日 第47回 地域医療ネットワークの会

「施設でのホスピスケアを知る」

「ホスピスケア」と聞くと、在宅ホスピスケアや病院の緩和ケア病棟をイメージします。ホスピスケアの需要が高まる中、少子高齢化を背景とした核家族化や老々世帯が増えている状況から、病院のほかにも介護施設でのホスピスケアを受ける人が増えています。今回は、末期がんや難病の患者・家族が、施設でどのようなホスピスケアを受けて生活しているのか、株式会社 ケアホスピス鷺沼の方より講演していただき、意見交換を行いました。

今回はオンラインで開催し、27施設69名の参加がありました。

座長 聖マリアンナ医科大学病院 町田 千鶴
講演 「難病・癌末期患者の療養先について考える」
～ケアホスピスいつ知るのが？～
株式会社AT ケアホスピス鷺沼 施設長 笠井 康 氏



笠井氏より、昨今、癌患者や難病患者の療養先として多数の選択肢(在宅・施設・療養病院等)が考えられるようになってきたとお話がありました。その中の1つである、医療対応住宅ケアホスピスとはどんな施設であるのか説明がありました。ケアホスピスは、医療対応が可能で、往診で医師の診察を受け、看護師や介護士が常駐し、看取りまで可能ということでした。一般的にホスピスという施設に対してネガティブに思う方や制限があり自由な生活ができないと認識される方もいますが、自由度が高く、生活スタイルに合わせて過ごせることが特徴であると説明がありました。

後半では、実際にご入居されている方の事例をあげ、どんな対応をされているのかお話がありました。パーキンソン病で、胃ろう管理、痰の頻回吸引が必要な方は、1日3回の胃ろう対応の訪問看護時に吸引を行い、さらに他の方の訪問の隙間時間に巡回対応することで対応している。また癌末期でナースコールが押せない、疼痛管理が必要な方には、夜勤帯含めて定期的な巡回で疼痛コントロールの為、適宜医療用麻薬を調整し、緊急時には往診へ連絡できるように対応していると紹介がありました。様々なニーズがあるため、その方にあったものを提供できればと思っているとお話がありました。

質疑応答では、病院の緩和ケアとケアホスピスの違いを知りたいと質問がありました。在宅型サービスであり、面会時間や飲酒ができるなど自由度が高いところが特徴。面会は自由なので、面会していただける方がいれば、面会の機会を提供することも終末期看護とお話されていました。最後に株式会社ATの山口氏より、喜んで入居される方は少なく、レスパイトでのやむおえず入居される方が多いため、結果的に入居して良かったと思ってもらえるようにしたい。他社としてのぎを削りあうわけではなく、同じような施設が増えたらいいと思っているとお話がありました。

アンケート結果では、「事業所さんが、地域のためにという思いで運営されている事を聞けて良かった」、「終末期の医療、介護についての連携、情報共有はとても重要で各施設単独では解決できないケースがほとんどなので、ホスピスケアを運営されている方から現場目線での話を聞かせていただき勉強になった」等の意見を頂きました。

ケアホスピスがどんなところか知ることができた他に、地域の医療・介護のため、利用する方の様々なニーズに合わせて支援されている事を知ることができました。病院、施設、在宅と様々な療養場所がありますが、場所が変わっても、患者・利用者のニーズにあった医療・看護・介護の提供を行っていけたら良いと今回の講演では思いました。